

- 8) 交叉試験 インスリン, グルカゴン, ガストリン, セクレチンの間に交叉性は全く認められなかった。  
 9) 相関(他社二抗体法キット)

$r=0.969, y=0.986X \pm 0.391$  (N=74)であった。以上の如く、本キットによる測定は操作も簡便であり、得られたC-ペプチド値も良好であり、臨床にも十分応用し得るキットであると考ええる。

### 18. CPR 測定に関する臨床的検討

中野 哲 北村 公男 綿引 元  
 武田 功 小沢 洋 熊田 卓  
 浜野 博次 杉山 恵一

(大垣市民病院・第2内)

金森 勇雄 松尾 定雄 樋口ちづ子  
 市川 秀男 木村 得次 安田 鋭介

(同・特殊放射線センター)

佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

合成ヒトC-ペプチドを抗原とするシオノギのCPR-RIA キットを用いて、一次性糖尿病17例、慢性肝炎16例、肝硬変症10例、慢性石灰化性膵炎4例、消化器の機能障害9例の総計56例を対象とし、50Gブドウ糖負荷試験を施行し、血糖、IRIと共にCPRを経時的に測定し、次の結果をえた。(なお、対照として健常者12例に同じ検査を行った)。

1. 健常者においては、IRI, CPRともに類似の曲線を示し、負荷後60分が最高の単峰性の曲線をえた。
2. 一次性糖尿病においては、軽症例は健常者と類似の曲線を示したのに比し、重症例でIRI, CPRともに低い平坦な曲線を示した。
3. 肝疾患においては、IRIは高値を示したが慢性膵炎では平坦な低い曲線を示した。一方、CPRは慢性膵炎において最も高値を示したが慢性膵炎では低値であった。
4. Sum IRIは重症糖尿病で低く、肝疾患では高値を示したが、 $\Delta\text{CPR}/\Delta\text{BS}$ は糖尿病では重症例ほど低値を示したが、肝疾患では高く、肝硬変症に比し、慢性膵炎では明らかに高値を示した。
5.  $\Delta\text{IRI}/\Delta\text{BS}$ と $\Delta\text{CPR}/\Delta\text{BS}$ の相関は糖尿病で有意であったが、肝疾患、消化器疾患では必ずしも明らかではなかった。

以上からCPRはIRIと同時に測定すればインシュリ

ンとCPRの代謝の差から、一次性糖尿病と、肝、膵疾患に合併する二次性糖尿病との鑑別に極めて有用と思われる。

### 19. 胆汁酸 RIA キットの基礎的検討

樋口ちづ子 金森 勇雄 松尾 定雄  
 市川 秀男 木村 得次 安田 鋭介

(大垣市民病院・特殊放射線センター)

中野 哲 北村 公男 綿引 元  
 武田 功 小沢 洋 熊田 卓

浜野 博次 杉山 恵一 (同・2内)

佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

今回、我々はRIAキットを用いての血中胆汁酸測定の基礎的検討を実施したので報告した。

#### 結果

- 1) 標準曲線の再現性 各濃度における変動係数は40~13.5%の間にあった。
- 2) Incubation 温度 Ist. incubation 25°C. II nd. incubation 25°Cにて安定した状態が得られた。
- 3) Incubation 時間 Ist. incubation 20時間 II nd. incubation 30分にて安定した状態が得られた。
- 4) 同時再現性 変動係数は4.7~16.5%の間にあった。
- 5) 日差再現性 変動係数は5.3~15.8%の間にあった。
- 6) 希釈試験 ほぼ理論値と一致した値が得られた。
- 7) 回収試験 回収率は97.7~157.7%の間にあった。
- 8) 交叉試験 CEA, AFP, グルカゴン, ガストリンとの間には交叉は認められなかった。
- 9) 健常者における空腹時血中胆汁酸値は、M.V.±S.D.で $0.65 \pm 0.29$  n mol/ml (N=45)であった。

以上の如く、本キットによる測定は、操作も簡便であり、得られた血中胆汁酸値の再現性も良好であり、臨床に十分応用し得るキットであると考ええる。